

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和6年(2024) 5月 Vol.105

CONTENTS

- 1~2 21世紀文明シンポジウム「気候変動問題と社会の大転換」を開催
- 3 情報ひろば
- 4 令和6(2024)年度事業計画
- 5 HAT神戸掲示板
- 6~8 人と防災未来センター MIRAI

21世紀文明シンポジウム 「気候変動問題と社会の大転換」を開催

ひょうご震災記念21世紀研究機構は2月20日(火)、気候変動・地球環境問題への対応をテーマとした「21世紀文明シンポジウム」を神戸市内のラッセホールで開催し、オンライン配信と合わせて約470人が受講しました。基調講演とパネルディスカッションの概要を報告します。

◎基調講演

「人新世の新しい生活創り、人間・自然を重視する脱成長経済へ」

講師 斎藤 幸平 東京大学大学院総合文化研究科准教授

社会が大きな転換を強いられるくらい気候変動が進行している中、これまでのやり方の延長を考えているだけでは、この問題は全く解決しない。気候変動の危機をきっかけとして、より弱い立場の人たちが犠牲になってしまうのではないかという環境正義の視点、脱成長依存の視点から、21世紀の新しい文明の在り方を考えていくべきだというのが、本講演のメッセージになる。

経済成長するという事は、よりたくさんの自動車を製造して販売する、場合によってはより大きな車を作ったり、古い車が使えても新しい車を買ってもらったりすること。経済は成長するけれども、必要でない電気自動車をたくさん作るために貴重なエネルギーや資源を浪費する。電気自動車は必要だけれども、それプラス、自動車の数そのものを減らす必要がある。それが脱成長だ。

私たちはもっと、幸福度であるとか、平等であるとか、社会参加で得られる満足というものに豊かさを見いだすような社会に変えていく必要がある。経済成長を富の尺度とするのが資本主義の社会だとしたら、資本主義ではない社会を目指すべきである。

そういう話をすると、「脱成長というのは緊縮ではないか。常に環境のために私たちに我慢や貧困を迫る悪いものだ」と吹聴する人たちがいる。そうではなく、私たちが生きている資本主義社会の潤沢さというのは、商品の潤沢さにすぎないことを理解し、これからの時代はもっと別の潤沢さを求めてもいいのではないかと、それが私の考えるコモン

の豊かさというものである。
コモンとは人間誰もが必要とするもの、公共交通機関、インターネット、教育、医療などをもっと無償に近い形にで

きれば、人々は少なくとも生きていく上での安心を得ることができ、環境負荷をほとんど高めることなく、より多くのものをシェアし、より豊かな社会を実現できる。商品の潤沢さを減らし、代わりに公的な富の潤沢さを増やしていく。それによって、人々の生活を安定させていく社会というのが大きなコモン型社会のビジョンであり、それを私はコミュニズムと呼んでいる。そのための原資として所得課税、相続税、法人税などを含む税制改革の余地はあると思うが、ビジョンとして、そういう社会転換の方向性を打ち出していくことが必要ではないかと考えている。

こうした問題について何をなすべきか。資本主義とか、脱成長とか、そういう大きな視点でこの社会の大転換を皆さんと一緒に成し遂げていければいいと思っている。

◎パネルディスカッション

コーディネーター 宇佐美 誠 京都大学大学院地球環境学堂教授
パネリスト 小嶋 公史 (公財)地球環境戦略研究機関関西研究センター副所長
大久保 規子 大阪大学大学院法学研究科教授
更家 悠介 サラヤ株式会社代表取締役社長
向山 遥温 NPO法人夢ノ森伴走者CUE代表理事

宇佐美●このシンポジウムのテーマである「気候変動問題と社会の大転換」には2つの意味がある。一つは気候変動が深刻化して社会を揺るがし、転換が求められていること。もう一つは、気候変動を少しでも抑えることができないか、被害を少なくするにはどうしたらいいか、緩和策、適応策を進めていくための転換が求められていること。

これまでの話の中でのキーワードが「気候正義」。気候正義は、研究のトピックとして背後に気候先進国と発展途上国間の南北格差、ついでに次世代に回す世代間格差、さらに気候正義の運動、その背後にそれぞれの社会の中の格差、という問題がある。

小嶋●IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、世界

中の科学者の協力の下、世界の科学誌に査読を経て掲載された論文のみを集めて、今の科学で何が言えるかを評価する機関である。1990年の第1次評価報告書では「気温上昇が起きているのかもしれない」という表現が、第3次報告書では「人間の活動によって気候変動が起きている可能性が高い」となり、最新の2022年第6次報告書では、「人間の活動が原因で気候変動が起きていると科学的に疑う余地がない」と言い切った。

第6次では、アジアで熱波、干ばつ、ヒマラヤの氷河の融解の可能性が高まっていること。それらに伴い、水不足と海水を淡水に変えるためのエネルギー需要の増大、サンゴ礁や干潟等デリケートかつ脆弱な環境域では生態系が不可逆的に失われることが指摘されている。食糧問題や居住できなくなる地域の拡大による移住の問題も発生し、もともとアジアが直面していた課題である貧困、格差、経済成長や人口増に伴うエネルギーの逼迫等がさらに深刻化する要因となる。

これらは一つの国だけでは解決できない。国際社会が連携し、対応を始めるきっかけになればと考えている。

大久保 ● 私たちは良い環境を享受する権利があるとする「環境権」は、日本では認められていない。しかし国連加盟国の80%以上、161カ国で承認されている権利である。さらに、先住民の権利、将来世代の権利を認める国も出てきており、現在絶滅の恐れがある人間以外の生物にも環境権があるのではないかと議論される時代になっている。

世界で初めて自然の権利を認めたのはエクアドルである。「経済活動の自由」を唱えて多国籍企業により貴重な資源の収奪戦が繰り広げられているのに、先住民の目の前にあって生活の糧となっている自然に彼らの権利が認められないのはおかしい、と自然と調和的な生活を営む権利を憲法に書き込んだ。以来、ボリビア、コロンビアでも政府が自然の権利について一定の役割を果たすべきとする裁判所の判決が出ている。

一方日本では、奄美大島のアマミノクロウサギ、ルリカケス等の生息域の開発について、被害を受ける動物たちを原告として、あるいは人間を動物たちの代理人として訴訟を起こしたことがあるが、いずれも却下された。これが日本の現状である。

更家 ● 私が経営するサラヤ株式会社では、パーム油を原料に「ヤシノミ洗剤」を製造している。テレビでは「サラヤの洗剤は環境に優しい」と言われている。しかし、「ボルネオで

は、パーム油を採取するアブラヤシを栽培するために、どんどん熱帯雨林を切り倒していった象やオランウータンのすみ家を奪っている。実は環境に悪いのでは」と言われたことがあった。

そこで、トラストを組織し、ヤシノミ洗剤の売り上げの1%を寄付することで土地を確保しながら緑の回廊を造った。2008年にはトラストジャパンが設立され、子象の保護園を造るなど、緑の回廊をつなげていこうという機運が広がっていった。消費者にヤシノミ洗剤の代金の1%を負担してもらうことで参加意識を持っていただくことにより、生産地から消費地までバリューチェーンでつながっているのが良いと考えている。

私はビジネスマンなので、「経済に道徳を持ち込む」が新しい経済理論になるよう、体制をつくっていきたくと思う。
向山 ● 小学5年生の時、沖縄の基地問題や戦争の悲惨さを知ったことをきっかけに、「平和な社会」のために自分のできることをやろうと考えた。平和な社会、すなわち次の世代に「ありがとう」と言ってもらえる社会、自分と自分の大切な人たちが笑顔でいる社会、100年後、200年後も平和が持続している社会を、人生をかけて達成したい。

NPO法人夢ノ森伴走者CUEでは、2023年度、人と自然の思いが集まる拠点「きっかけの森」づくり、グローバルシェアリング福祉拠点「cafeむすびめ」の運営を行った。2024年度は、いよいよ本格的に、きっかけの森の整備を行う。里山の持ち主とは協定書を締結し、手を入れさせていただき許可を頂いている。

若い世代が「こんなことやりたい」と言えば、地域の方が「こんなことならできるよ」と応える。地域での困り事があればそれを若い世代が解決する。そういうイベントをcafeむすびめで開催していきたいとも考えている。



第9回貝原俊民美しい兵庫づくり賞（貝原賞）の被表彰候補者推薦募集中

貝原賞は、元兵庫県知事の故貝原俊民氏が目指した「美しい兵庫づくり」に寄与する有意義な活動により地域社会に貢献し、今後も一層の活躍が期待される個人または団体を表彰するものです。

- ▶ 対象 活動歴がおおむね10年以上、個人はおおむね55歳以下
- ▶ 表彰 3件程度に、賞状および副賞(個人50万円、団体100万円)を贈呈
- ▶ 応募方法 推薦書の提出が必要です(自薦も可能)。詳しくは当機構ホームページ(<https://www.hemri21.jp/>)をご覧ください。
- ▶ 締め切り 7月16日(火)必着

- 申し込み・問い合わせ (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター
TEL 078-262-5713
Eメール gakujutsu@dri.ne.jp

情報ひろば

兵庫県こころのケアセンター

令和6年度第1期 こころのケア研修の受講者募集

こころのケアに携わる保健・医療・福祉・教育・消防・警察等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ研修の受講者を募集しています。

● 研修概要

区分	コース名	期 間	定員	対 象	受講料	申込締め切り日
専門 研修	悲嘆の理解と遺族への支援	7月24日(水) 25日(木) (2日間)	35人	医療、保健、福祉、心理臨床の分野で活動する者および遺族支援に携わる者	3,600円	6月12日(水)
	被害者や被災者の中長期の回復を支えるこころのケアサイコロジカル・リカバリースキル	9月4日(水) 5日(木) (2日間)	35人	医師、公認心理師、看護師、保健師、精神保健福祉士、その他関連領域の関係者	3,600円	7月24日(水)
	DV被害者のこころのケア	9月19日(木)	35人	母子自立支援員、女性相談員、婦人保護施設職員、母子生活支援施設職員、家庭問題相談員、保健師、福祉事務所職員、こども家庭センター職員、DV被害者相談支援関係職員	2,500円	8月8日(木)
	消防職員のための惨事ストレスの理解と予防	10月2日(水) 3日(木) (2日間)	35人	消防職員	3,600円	8月21日(水)
	犯罪被害とこころのケア	10月10日(木) 11日(金) (2日間)	25人	保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係等職員	4,100円	8月29日(木)
	発達障害とトラウマ 【Web開催】	10月31日(木)	35人	こども家庭センター職員、福祉事務所職員等児童虐待関係職員、保健所職員、教職員、スクールカウンセラー、保育職員	2,500円	9月19日(木)

- 場 所 等 = 兵庫県こころのケアセンター または Web(Zoomで実施)
- 申し込み方法 = 下記申し込みフォームよりお申し込みください。
申込者多数の場合は、各申込締め切り日を期限として抽選で受講者を決定します。

【申し込みフォーム】 下記URLまたは右の二次元コードからお申し込みください。
https://www.j-hits.org/form/training_r06/

[問い合わせ]

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2(阪神「春日野道」駅から徒歩約8分)
 TEL 078-200-3010
 Eメール kensyu@j-hits.org



Webマガジン

Wonderful KOBÉ

2巡目の神戸。
明日は今日よりちょっと
幸せになる。

季節の特集、食や暮らし、SDGsの話題に、毎日更新するパンコーナーも。会員登録不要です。



ワンダフルコウベ編集部
(運営:株式会社 神戸新聞総合印刷)

令和6(2024)年度事業計画

1. 基本方針

令和6(2024)年度は、阪神・淡路大震災30年を念頭に置きつつ、これまで研究戦略センターで計画的に進めてきた巨大災害に対する備えの強化やポストコロナ社会に関する研究調査を着実に推進するとともに、人と防災未来センターの防災の知恵(災害文化)を普及・啓発する取り組みの展開や、こころのケアセンターの機能強化を図るなど、阪神・淡路大震災の経験と教訓を生かしながら21世紀文明の創造を目指すシンクタンクとして設立された本機構の使命を果たしていく。

なお、展示事業・シンポジウム・研修会等においては、今後Web会議・配信などICTの積極的な活用により、事業の効率化と機会・対象の拡充、発信力の強化を図っていく。

2. 主な取り組み

(1) 研究戦略センター事業

「安全安心なまちづくり」と「共生社会の実現」に向け、「巨大災害に備える政策研究」は南海トラフ地震などの巨大災害発生時の行政の在り方や被害軽減などをテーマに、「ポストコロナ社会に関する政策研究」はパンデミックに対する防災研究の適用検討などをテーマに、政策課題に対応した具体的な提言に向けた研究調査を行う。

災害が多発するなか、震災の経験と教訓を踏まえ、減災社会の構築に向けた諸課題について幅広い観点から考察し、県民を含めたより開かれた多面的な議論の場を創出するため、マスメディアとの共催により、「防災・減災」をテーマとしたシンポジウムや、気候変動(変化)など地球環境問題が今後の自然生態系や人間社会にもたらすさまざまな事象や危機について考察し、安全安心で持続可能な共生社会の実現に向けた諸課題について多面的に議論することにより21世紀のあるべき文明や文化について考えるシンポジウムを開催する。

また、わが国の安全安心に大きな関わりを持つアジア・太平洋地域が抱える重要なテーマについて、学者、文化人、経済人等で構成する「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」のネットワークを通じ、「新たなアジア太平洋のビジョン」を明らかにし、その実現に向けて広く社会に政策提言を行うため国際フォーラムなどを淡路島で開催する。

さらに、危機管理や防災対策に携わる全国の自治体職員が被災自治体等の体験に基づいた知見や復旧・復興への取り組みを共有し、今後予想される巨大災害などのさまざまな災害への備えについて考え地域防災力の向上を図るため、被災自治体等からなる実行委員会の下、機構が事務局となって自治体災害対策全国会議を開催し、マスメディアとも連携して全国に発信する。

このほか、兵庫の多彩な知的資源や機構のネットワークを活用し、大学や研究機関等との連携により、テーマ性を明確にした機構ならではの高度な学習機会を提供する連続講座を開催するとともに、研究情報誌「21世紀ひょうご」、ニュースレター「Hem21」の発行のほか、ITの活用など多様な媒体により、県内はもとより全国に向けて情報発信に取り組む。

(2) 人と防災未来センター管理運営事業

阪神・淡路大震災30年を迎えるに当たり、大阪・関西万博の開催も見据え、これまでの活動成果や今後の大規模災害に備えるための知識を国内外に一層広く発信する。また、地球規模での安全安心な社会づくりに貢献するため、世界のあらゆる国の幼児から高齢者まで全ての人に役立つ防災の知恵(災害文化)を普及・啓発する取り組みを展開する。

震災を知らない世代が増加しており、その経験と教訓を伝えることがますます重要な課題となっていることから、阪

神・淡路大震災の経験と教訓を映像、ジオラマ、震災時の実物資料等により分かりやすく展示するとともに、東日本大震災等の災害も踏まえて防災・減災の知識や技術等を効果的に発信するほか、人と防災未来センターのこれまでの研究成果や収蔵資料等を活用した震災30年メモリアル特別展示(仮称)を実施する。

また、コロナ禍の影響で減少した利用者の回復を図るため、小・中・高校生を中心にした取り組みに加えて、大人の団体の来館や比較的利用が少ない時期の利用を促すなど、年齢、職業、地域等に応じてきめ細かな広報・集客対策を進める。

さらに、国内外で大規模な被害を伴う災害が発生した際には、速やかに情報収集活動を行い、状況に応じて、センターの研究員等を被災地へ派遣する。被災地に阪神・淡路大震災や東日本大震災等の対応で得られた教訓をはじめ、災害対応の経験と実践的なノウハウを踏まえた情報提供や助言を行うとともに、今後の災害対応に生かせる教訓を導き出すための調査を実施し、その結果を取りまとめ情報発信する。

全国の地方自治体職員を対象として、阪神・淡路大震災の教訓や最新の研究成果を踏まえた実践的かつ、巨大災害対策に必要な知識や技術を体系的に網羅した災害対策専門研修を実施する。

人と防災未来センターやその周辺に集積する国際的な防災・人道支援関係機関を中心として、行政実務者、研究者、市民、企業などによる多様なネットワークを構築し、相互の交流や情報発信の拠点として社会の防災力向上を促進する。

このほか、震災30年事業として、「1.17減災シンポジウム(DRAフォーラム2025)」「災害伝承ミュージアムフォーラム」「災害メモリアルアクションKOBE2025」の開催や、「防災100年えほんプロジェクト」を推進する。

(3) こころのケアセンター管理運営事業

東日本大震災、熊本地震の被災地などへの地域支援活動を継続するほか、消防関係惨事ストレスやウクライナ避難民支援、子どものこころのケアに対する相談・診療体制等の強化を引き続き推進するとともに、兵庫県災害派遣精神医療チーム(ひょうごDPAT)に対する研修などを実施する。

また、阪神・淡路大震災30年記念事業、こころのケアセンター設立20年記念事業として「こころのケア国際シンポジウム」を開催し、研究成果や「こころのケア」に関する活動の状況と課題について情報発信し普及啓発を行う。

さらに、「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉・教育などの関係者を対象に、各種課題へ対処法等について学ぶ専門研修と基本的な事柄について学ぶ基礎研修等を実施する。

また、いのちの尊厳と生きる喜びを高めるという「ヒューマンケア」の理念に基づいた健康福祉分野を中心とした専門的人材を養成するための「グリーンケア講座」や一般県民向けの「アートとこころのケア講座」などの各種講座を開設するとともに、音楽療法の普及を推進する。

さらに、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震の被災地などで支援活動を行うとともに、災害、自殺関連、事件・事故における危機対応、支援者へのコンサルテーション、消防関係惨事ストレスやウクライナ避難民へのこころのケアに係る支援活動等、こころのケアに取り組む関係機関との連携・交流の促進を図り、広域的なネットワークづくりを進める。

このほか、災害発生時の支援体制の強化を図るため、兵庫県や神戸市、災害拠点精神科病院と連携し、ひょうごDPAT研修による実務者の育成および関係機関や近畿圏域の各府県DPATとの協力体制の充実を図る。

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

コレクション展 I

本年は、生地の尼崎で終生制作を続けた白髪一雄(1924-2008)の生誕100年にあたります。これを記念して、常設展示室2室を使い、所蔵作品のなかから白髪の優作、代表作を厳選して特別展示を行います。また、特別展「スーラージュと森田子龍」に連動して、2人の交流のあった1950年代から60年代にかけて、パリやニューヨークで制作した今井俊満、堂本尚郎、菅井汲、岡田謙三らの作品を展示します。

■会期=7月28日(日)まで

■観覧料=一般500円(400)円、大学生400(300)円、高校生以下無料、70歳以上250(200)円、障害者手帳等をお持ちの方(一般)100(100)円、障害者手帳等をお持ちの方(大学生)100(50)円

※()内は団体料金

※一般以外は要証明書

◎休館日=月曜日(ただし、7月15日(月・祝)は開館、7月16日(火)は休館)

◎開館時間=10時~18時 ※入場は閉館の30分前まで
 ※展覧会についての詳細は兵庫県立美術館ホームページ(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)にてご確認ください
 ◎問い合わせ TEL 078-262-1011



①

①白髪一雄《黄帝》1963年 油彩・布



②

②浅原清隆《敗北》1935年 油彩・布

JICA関西

◆食べることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア)は、どなたでもご利用いただけます。完全禁煙で、子供椅子もご用意しておりますので、お子様連れも大歓迎です。月替わりエスニック料理は、いつもご好評いただいております。

6月26日はマダガスカルの独立記念日にちなみ、6月の月替わりエスニック料理はマダガスカル料理を予定しています。また、7月は2024年が日・パラオ外交関係樹立30周年ですので、大洋州ミックスプレートのご提供を予定しています。



写真は5月のエジプト料理

月替わりエスニック料理の詳細と写真はこちら→

JICA関西食堂

<https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/office/restaurant/index.html>



■営業時間=(昼)11時半から14時まで(夜)17時半から21時まで
 ※各終了30分前ラストオーダー

■定休日=年中無休(年末年始を除く。)

(注)詳しい休業日についてはJICA関西ホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課

TEL 078-261-0341 FAX 078-261-0342

Eメール ksictad@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

→ <https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

令和6年能登半島地震災害への対応

令和6(2024)年1月1日に発生した能登地方を震源とする地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。

日本赤十字社では、大規模な災害となった際には、広域的に全国の支部が被災地支部を支援する仕組みを確立し、多様な被災状況に、迅速かつ組織的に対応できる体制を整えています。



兵庫県支部でも、地震発生直後から、救護班やコーディネーターチームを石川県に派遣し、全国から集結した日赤救護班らと共に、被災者の救護やこころのケアを中心に尽力しました。

このような「いのちと健康を守る」赤十字の活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金によって成り立っています。

活動資金へのご協力をよろしくお願いいたします。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/> →



※日本赤十字社に対して一定額以上の寄付いただいた場合は、税制上の優遇措置が受けられます

※団体・法人の皆さまの社会貢献のご意向や業種・商品に合った寄付のプログラムをご用意しています

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)

赤十字 兵庫

検索



防災100年えほんプロジェクトによる防災絵本3冊を出版

令和4(2022)年度から人と防災未来センター等で取り組んでいる「防災100年えほんプロジェクト」による初のオリジナル絵本3冊を、令和6(2024)年3月に出版しました。

3月17日(日)には、絵本の完成を記念して「防災100年えほん出版記念フォーラム2024 創作絵本で伝え広げる災害語り継ぎと防災・減災」を開催し、スクリーンに絵本を映し出しての読み聞かせ等を行いました。会場では絵本の原画展示および先行販売を実施し、絵本作家3組によるサイン会も行われ、一般参加の皆さまにも楽しんでいただけた催しとなりました。

3冊の絵本は、いずれも「100年先の未来まで伝えたい大切なこと」を描いた作品です。センター東館1階ミュージアムショップのほか、全国の書店やAmazon等のオンラインショップでご購入いただけます。ご興味のある方は、ぜひチェックしてみてください。



たったひとつのおやくそく

(神戸新聞総合出版センター、1,650円(税込み))

作・絵:金澤 麻由子、原案:横林 良純

【内容】

「おおきな地震が起きたらどうする?」まりちゃんはお母さんと大切な約束を交わします。津波てんでんこー自分の命は自分で守ること、自分が逃げることで他の人も逃げるきっかけとなること、それぞれが自力で逃げてくれると信じ合うことで共に命を守れることを伝えます。



おじぞうさんのおけしょうがかり

(神戸新聞総合出版センター、1,650円(税込み))

作・絵:たさき きょうこ、原案:御崎 あおい

【内容】

海辺の街を見下ろす丘に通うおばあさん。ある日、出会った子どもたちにその理由を打ち明けます。

昔の人々は災害が起きた日や被害の大きさ等を文書や絵、石碑で書き残し語り継いできました。丘の上にあるおじぞうさんの物語から災害伝承の大切さを伝えます。



ぼうさいバッグのちいさなポケット

(神戸新聞総合出版センター、1,650円(税込み))

作・絵:twotwotwo(ににに)、原案:たかます あやか

【内容】

いつもお父さんが向かう倉庫。興味津々のまーくんは、ある日、後を追って中をのぞいてみます。

父親が行っている災害への備えを子どもが知る様子から、家庭での備えについて学ぶことができます。



新任研究員紹介

■研究員 池端 祐一郎(いけはた ゆういちろう)

皆さま、初めまして。本年度から人と防災未来センターの研究員に着任いたしました池端祐一郎と申します。

学術研究では、哲学・倫理学を専門に、カトリックの中絶問題と絡めていくつか(熊本の慈恵病院の「このとりのゆりかご」、アメリカの大統領選挙、女性の月経など)の論文を発表してきました。

また、修士号を取得してから博士課程に進学するまでの間に陸上自衛隊で幹部自衛官として勤務していました。東日本大震災の翌年の2012年度に入隊したため、当時の幹部候補生学校の学校長の田浦正人氏をはじめ、多くの災害対応業務に従事した教官・同僚と訓練等を行なった他、災害対応の業務にも従事しました。

とりわけ平成30年7月豪雨(2018)では広島県で人命救助や給水支援などの現場指揮などもしました。その現場で

は、自衛隊が様々な省庁が所管する業務を支援しているために多くの権限を有しておりすぐに対応できるようなことでも、消防等の他の機関は特定の業務の権限しか付与されていないためにすぐには対応できないといったことが生じたりしていました。

哲学・倫理学では、災害対応に従事した研究者がいないこともあり、現場の実情や葛藤を踏まえた考え方を提示できているとは言い難い状況です。より現場に即した「災害と倫理」の研究を始めようと考えていたところ、人と防災未来センターに研究員として採用していただけることになりました。自衛隊だけではなく観点から様々なご意見・指導を頂きつつ、他の方の研究にも寄与できるように努めていく所存です。どうぞよろしくお願いたします。



■研究員 松村 圭悟(まつむら けいご)

皆さま、初めまして。人と防災未来センターの研究員として着任しました松村圭悟と申します。

私は、これまで、株式会社サイエンスクラフトのコンサルタントとして、主に内閣府防災からの省庁業務継続計画や防災計画に関する調査研究業務、地方公共団体からの防災人材育成や災害対応マニュアルの作成に関する受託業務などを担当してまいりました。実際に、コンサルタントとして、国や地方公共団体で実務を担われている公務員の方々とお仕事をさせていただく中で、実務者の方々から直面している課題に触れつつ、さまざまなことを学ばせていただきました。

学部と大学院では法学を専門とし、災害対応に関する行政法、国際法、アジア法を中心に研究してまいりました。近時は、南海トラフ地震といった国難災害に対して、国の災害対策本部や現地対策本部での組織間連携・調整の

課題に関心を持っており、行政組織法や行政学などの知見を生かしながら、制度的課題の解明に取り組んでまいりました。

これまでのコンサルタントとしての実務経験や、大学院生として研究活動に取り組む中で、南海トラフ地震や首都直下地震といった国難災害へ対応する上で、さまざまな難しい課題があると感じ、より実践的に研究の立場から災害対策法制や災害対策本部などの課題に取り組んでみたいと考えていたところ、研究員として採用いただけることとなりました。

人と防災未来センターの研究員として、実践的な防災研究を行うことを通じて社会に貢献してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)

入館料金

大人:600円(450円) 大学生:450円(350円)

東館のみ観覧の場合

大人:300円(200円) 大学生:200円(150円)

高校生、中学生・小学生:無料

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者、70歳以上の高齢者割引有

※毎月17日は、入館無料(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月3日

※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休

※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、
「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩約12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅
西口から徒歩約20分

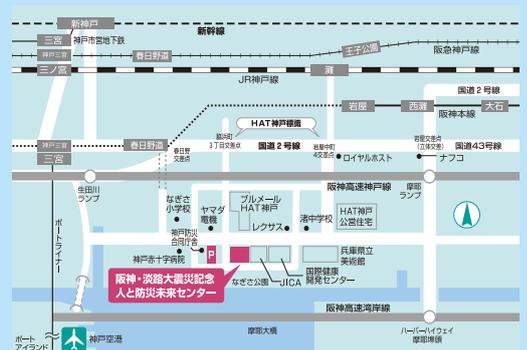
バス

- ・三宮駅前から約15分

車

- ・阪神高速道路神戸線
「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線
「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり



■ 研究員 南 貴久(みなみ たかひさ)

4月から人と防災未来センターの研究員に着任しました。南貴久です。専門は都市計画で、水害避難や防災教育、防災を軸にしたまちづくり・地域づくりに関心を持っています。

私はもともと気象や防災に関心を持っていましたが、高校を卒業する直前に東日本大震災を経験し、復興教育支援のボランティア等に参加させていただく中で、より直接社会と関わりながら防災について考えていきたいという思いを強くし、この分野で研究を続けてきました。

これまでの研究では、避難のシミュレーション、避難を妨げる要因の構造化、大規模水害時の避難への経済的モデルの導入の検討などを行ってきました。また、NPOのアドバイザーとして、東京都葛飾区の水害に対応したまちづくりを考える「輪中会議」の運営や、中学校の防災部の支援、小学校での水害に関する出前授業の講師などを経験

しています。

関東から神戸に移り住んでまだ半月余りですが、この地では震災の記憶が多くの方々の心に刻み込まれ続けていることを実感しています。一方、気候変動が進行する中、大規模水害や土砂災害といった気象災害への対策も重要性を増してきています。さまざまな災害に強い、安全な「まち」や「地域」をつくるにはどうしたらよいのか？実際に地域と関わらせていただく中で、答えの糸口を見つけていきたいと考えています。

人と防災未来センターは、多様な分野を出身とする研究員が集まっていることが大きな特徴だと思います。異分野の研究員の方々と、互いの強みを生かした新たな研究をスタートできることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。



■ 研究員 餅原 秀希(もちらは ゆうき)

皆さま、初めまして。4月よりお世話になります、餅原秀希と申します。もともと中国出身で、対人援助と障害者の芸術活動の支援について勉強したくて来日しました。今年で日本での生活は12年目になります。

大学から日本における障害者向けの芸術療法を学び、大学院、博士後期課程、大学研究員を経て、人と防災未来センターに入職しました。人と防災未来センターでは、災害時の障害者支援や被災地の芸術活動などに貢献したいと考えています。その一方で、地域社会における防災教育や障害者の地域活動への支援にも力を注ぎたいと思っています。地域住民との協力を通じて、より安全で包括的な防災体制の構築や障害者の社会参加の促進に貢献したいと考えています。

また、国際的な視野も持ちながら、日本の防災・災害支援のノウハウを他国と共有し、国際社会においても貢献したいと考えております。国際連携を通じて、世界中の人々

がより安全で持続可能な未来を築くために尽力していきたいと思っています。

これまでの経験を生かし、私は地域と国際の両面から防災と障害者支援に取り組んでいきたいと考えています。特に、地域社会での防災教育の重要性や障害者の地域活動への参加促進に向けて、積極的なアプローチを行ってまいります。さらに、他国との協力を通じて防災・災害支援の分野での貢献を目指します。日本が培ってきたノウハウや技術を世界に広めることで、より多くの人々が安全な環境で暮らせるように努めます。

私の目標は、地域と国際の架け橋となり、より良い社会の実現に貢献することです。今後も精力的に活動し、皆さまのご支援を得ながら、使命を果たしていきたいと思っています。



震災ビデオ変換ラボ開設中！

ご自身やご家族が撮影した阪神・淡路大震災記録ホームビデオ(磁気テープ)*を、資料室に設置した機器を使用してビデオファイルやDVD等に変換できます(利用条件あり、要予約)。

詳細は、<https://www.dri.ne.jp/material/about/donation/video-lab/>をご覧ください。

*テレビ放送の録画や販売パッケージの複製にはご利用いただけません。

■ お問い合わせ

人と防災未来センター西館5階 資料室 TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062

当機構は、以下の組織で構成しています。

● 管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

● 人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

● こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

● 研究戦略センター

▶ 研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

▶ 学術交流部
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください



Hem21 NEWS
vol.105

令和6年5月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<https://www.hemri21.jp/>